



<先進地紹介>

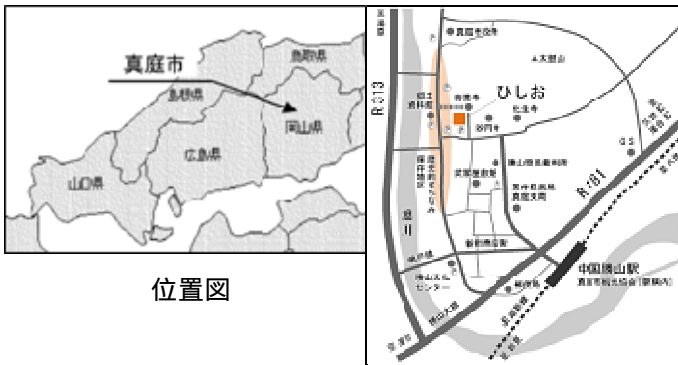
他県のまちづくりとアイデアの紹介 (鳥取県境港市, 岡山県真庭市, 長野県飯田市, 愛媛県松山市)

筆者が私用も含め県外で来訪した“まち”のなかで、アイデアのおもしろいものを紹介させていただきます。各市町村のまちづくり担当者にとって、よりよいまちづくりの一助となれば幸いです。

【岡山県真庭市】～のれんのまちづくり～

岡山県の北部真庭市の勝山地区を横断する出雲街道は、古代には出雲から大和へ鉄を運ぶ「鉄の道」として発達し、中世には「元弘の変」で京から隠岐島へ流された後醍醐天皇がたどった道として知られる。江戸時代以降は鉄や木綿の輸送とともに参勤交代の主要交通路となり、勝山藩の城下町であった勝山は、街道の要衝の地、高瀬舟による物資の集散地として栄えた。

現在も武家屋敷や商家をはじめ歴史的遺産が多く、出雲街道に面する通りは、町並み保存地区に指定されている。



位置図

勝山地区のまちづくりは、旧勝山町にUターンしてきた草木染作家、加納容子氏が260年もの古い実家に自分で造ったのれんをかけたところ、町の人から大きな反響があり、町内の希望者にのれんをつくるようになったことから始まる。

これがきっかけとなり、いまでは800mの出雲街道に80枚もののれんがかかり、その風情ある街並みが注目を浴び、訪れる観光客は年々増加の一途を辿っている。また、のれんを出し入れすることで地区内のコミュニケーションも良くなり、住民のまちづくりへの参加意識も芽生えてきたと言われている。地区のまちづくり団体が他の地区に視察にいったら、

みんなが“やはり勝山がいちばんええ”というように、自分達のまちに誇りをもっていることも感心させられた。

また、勝山地区は平成16年からまちづくり交付金事業により、廃業した醤油醸造場を既存建物活用事業により観光・地域交流センター“ひしお”として再生し、駐車場も整備することで、それぞれの軒先の“のれん”を楽しみながら回遊できる空間づくりがうまくできている。



勝山地区の街並み



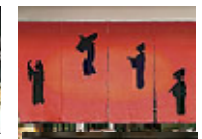
床屋



靴屋



御前酒酒造



民家



豆腐店



自転車店

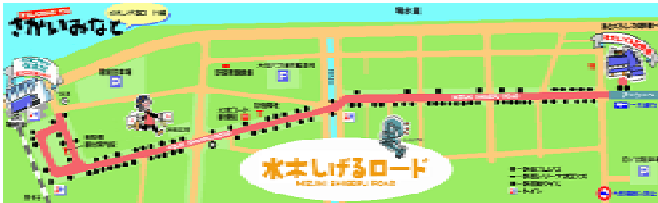


たばこ店



【鳥取県境港市】～水木しげるロード～

ゲゲゲの鬼太郎で有名な水木しげるロードは全国的にも有名になったことから、あえて私が詳細に説明する必要はないと思うので、本稿では特に、うまく商売に結びつけた商品事例と、行政の協力体制について書かせていただく。



位置図

境港駅（ねずみ男駅）から本町アーケードまでの全長 800mの間に『ゲゲゲの鬼太郎』のキャラクターを中心として全国各地の妖怪のブロンズ像が存在している。

また中核施設である水木しげる記念館がオープンしたことで 2007 年は 147 万人が訪れ、鳥取砂丘を超える一大観光地となっている。



筆者が来訪したお盆時期は一日 5 万人程度の来訪者がおり、駐車場から商店街を経由して記念館まで、往来共多くの観光客で賑わっていた。

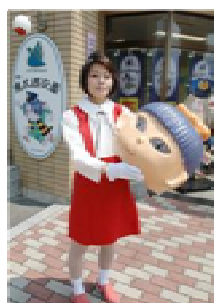
商店街では、キャラクターを使った物珍しい商品が飛ぶように売れており、シャッター街であった商店街の空き店舗に新規出店が相継ぐなどの好影響を生んでおり、その取り組みは商店街、地域活性化のモデルケースとして注目されている。

<特徴1> 行政・企業等とのタイアップ

- ・ JR 境線 鬼太郎列車運行
- ・ 境港市 住民票、印鑑証明書の偽造防止のすかしに妖怪を使用
- ・ 境線全駅に妖怪の名前の愛称を付ける。
- ・ 隠岐汽船 鬼太郎フェリー就航
- ・ 鳥取県警察 鬼太郎交番設置（境港駅前）
- ・ 自衛隊の基地練習機に鬼太郎と一反木綿のロゴを入れる

～事例紹介～

観光地の雰囲気損なわず犯罪防止に目を光らせようと、境港署は境港市の水木しげるロードで、着ぐるみの「ねこ娘」に変身した女性警察官がパトロールしている。



JR 西日本も鬼太郎電車、0 番線ホーム、駅名の変更などのタイアップを行っている。

<特徴2> イメージの商品化

商店街の活性化には、ゲゲゲの鬼太郎のイメージをうまく独自の商品に結びつけ、土産物として売り出すことで地元商店街の活性化に大きく寄与している。

右の例は缶ジュースや缶コーヒーのイラストに工夫を凝らしたもので、一番人気の売れ筋とのこと。



【長野県飯田市】～りんごのまちづくり～

飯田市は長野県の南西部にある人口 10 万人程度の市である。中心市街地の活性化には全国でも注目されている株式会社まちづくりカンパニーによる再開発事業やりんご並木のまちづくりが有名である。



市営の駐車場に車をとめると、そこからりんご並木が一直線に続いており、その先に飯田市動物園がある。

りんご並木は中央に幅広くりんごを中心とした植栽帯があり、自動車が走れるものの、道路は湾曲し、石畳であることもあり、りんごと歩行者が主役の道路空間を創出している。



リンゴ並木。沿道には新しくオープンした店舗が並んでいる



リンゴ並木周辺道路にはリンゴ型の縁石が並んでいる

ガードパイプもリンゴである



りんご並木の終点には無料の飯田市動物園があり、公園的な雰囲気も多く市民に利用されていた。飯田市は人口規模が10万人程度と、本県の多くの市と同等レベルであり、集約型のコンパクトなまちづくりのため、中心市街地の魅力を向上させるこのような取組は大いに参考になると思われる。

【愛媛県松山市】～松山市松山城地区～

松山市は筆者が平成19年にまち交全国大会で訪れた市である。松山市松山城地区はまち交大賞を受賞し、当大会でも各地で自らプレゼンを行うことで有名な松山市長が地区説明を行った。新しいまちづくりに積極的な市町村は、トップが将来を見据えて積極的に挑戦する気概をもっていると感じた。また自らがプレゼンテーションやセールス、講演会などに積極的に参加することで、その街の知名度を高め、ひいては街の活性化に繋がっていくと思う。

さて当該地区は、司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」で3人の松山出身の著名人「正岡子規」「秋山真之」「秋山好古」を主人公に、明治時代を中心に松山市の歴史を紹介する坂の上の雲ミュージアムを拠点に歴史のある松山の魅力を高めている。



ミュージアムは正三角形で、壁面が逆ピラミッド型に5°の傾斜をもって上部の方が広がっており、内部も三角形の壁面に沿って螺旋状に回遊しながら展示物を見ることができ

る。デザインの斬新さと巧く考えられた導線のとり方は、建築の専門家でない私にとっても非常に興味深いものであった。



ミュージアムの周辺は、国道からの進入路の歩道のインターロッキングや、椅子までを基調としており、統一感のある空間の創出に成功している。これらの

事業はまち交の高質空間形成事業で行っている。

また、秋山兄弟生誕の地など、ロープウェイ通りから少し入った観光施設への誘導には、路肩部分をカラー舗装、車道の一部に石畳を用いて導線の確保と、歩行者優先を意識させることを、比較的成本をかけず行っている。見学中に地元の方が道路の掃除をしており、生活道路としても大事にされている様であった。



坂の上の雲は、明治を支えた松山出身の3人の小説であり、これにちなんだと雲をイメージしデザインを市内で多くみかけた。原付のナンバープレートも雲型のものが見受けられ、興味深い。